令和7年度 真鶴町の教育基本方針・重点施策

1 基本理念 「教育は人づくり、人づくりはまちづくり、まちの未来づくり」 そして、そのすべての基盤は「互いの信頼」

急激な少子・高齢化が進展する中、「第5次真鶴町総合計画」に掲げる基本理念『「生（活）かす」「育む」「支え合う」』に沿った取り組みを基盤に、学校教育・社会教育を通して、子どもや町民が主人公の教育、一人一人を大切にしたい教育を推進します。

2025（令和7）年度からの4年計画である「後期基本計画」では、「これからの時代を生き抜く力を育む町」として21世紀型スキルや自然体験から生まれる感性の育成を重視した学校教育を推進するとともに、「生涯学習と生涯現役の町」として生涯学ぶ楽しさを味わえる町をめざし、「芸術と建築を楽しめる街歩き」の町として町内の創作活動拠点を活かした取り組みを行うこととしています。

今年度も、2018（平成30）年度から推進してきた「教育の魅力化推進計画」をもとに、地域の宝であり将来を担う子どもたちを育てる学校教育の充実と、真鶴に住む人々の生活をさらに豊かにする社会教育の充実を、保護者・町民との信頼関係のもと図っていきます。

また、今年度は、「真鶴町学校建設準備委員会」から示された施設一体型の小中一貫教育校（義務教育学校）に係る「真鶴町小中一貫教育校建設基本構想・基本計画」をもとに、基本設計の策定に取り組みます。

◇真鶴町がめざす子どもの姿

- ① 多様性を尊重できる子 … 互いの違いを認め合って生きる、他人を尊重する子、多様な価値を認める子、高齢者と共に生きる子、聞く力をもった子、共感する力をもった子
- ② 関わる力をもった子 … 社会力をもった子、関わり合い共生できる子、外に向かうバイタリティーをもった子
- ③ 創り出す力をもった子 … 意欲的に物事に取り組む子、夢中になれるものを見出す子、課題を見つけ出す感性を備えた子、解決方法を考え解決力をもった子、創り出す力・企画力をもった子、先を読む洞察力に富む子、主体的に考え粘り強く行動する子
- ④ 発信する力をもった子 … 自分の考えを発信する力をもった子、自分の思いが言える子、情報の取捨選択ができる子、情報を読み解く力をもった子
- ⑤ 心の豊かな子 … 自己肯定感をもち自分らしく生きる子、基本的な生活習慣を身につけた子、包容力をもった子、安心感をもち穏やかに生活できる子、自他を思いやる温もりをもった子
- ⑥ ふるさとを大切にしたい子 … 町の伝統・文化を引き継ぐ子、町の文化・自然に関わる子

◇「教育の魅力化推進計画」の概要

【学校教育】

<目的> ① 学校が小規模校化する状況においても、その良さを生かした教育活動を推進することにより、子どもや保護者、町民、教職員にとって魅力ある学校をめざします。

② 学校の魅力化を推進することで、少子化対策、子育て支援施策の充実を図ります。

<内容> ① ふるさと教育の推進 ② ICT教育の推進 ③ 外国語教育の推進

④ 幼（保）小中が連携した教育の推進 ⑤ 確かな学力の育成

⑥ 支援教育・インクルーシブ教育の推進

【社会教育】

<目的> ① 社会教育の魅力を発信することにより、真鶴町のさらなる施策の充実を図ります。

② 町民の健康づくりを推進し、活気溢れる元気なまちづくりをめざします。

<内容> ① 社会教育事業の充実

・町民の主体的な学習活動の推進と学習機会等の整備

② 文化財の保護と歴史・文化を生かしたまちづくり

・歴史・文化遺産等の保護・活用と町指定文化財の再整理

③ 町民みんなで楽しむスポーツの振興

・地域に根ざした生涯スポーツ活動の推進

④ 社会教育施設の連携強化及び再整備と経営改善

・中川一政美術館及び遠藤貝類博物館の教育普及活動拠点・文化観光拠点としての活性化

<学校教育>

【前文】

学校教育では、幼（保）小中の一貫した教育を通して「共に学び共に育ち、共に生きる力を育む教育をより一層推進する」ことを基本方針として、幼児・児童・生徒一人一人の個性を大切に、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成し、人格の形成をめざします。

その中で、少子化の急速な進展に対応する「教育の魅力化推進計画～学校教育～」の実施に努めるとともに、体験活動等を通して意欲、創造力、忍耐力、粘り強さ、協調性、コミュニケーション力といった非認知能力、いわゆる 21 世紀型スキルを育む教育を推進します。

さらに、2030（令和 12）年 4 月開校予定の小中一貫教育校（義務教育学校）において計画されている取り組みを、小中校舎施設統合段階から可能な範囲で進めるとともに、教育活動の土台となる学校安全についても随時見直しと改善を行い、安全な学校生活の構築を図ります。

（1）確かな学力

「学びに向かう力・人間性等」の涵養と「思考力・判断力・表現力等」の育成をめざした主体的・対話的で深い学びのある授業の創造を推進します。そのために、豊かな学びの土台となる基礎的・基本的な「知識・技能」を確実に身に付けることをめざした、児童・生徒一人一人の学びを大切にする指導の充実に努めます。

また、学校の小規模校化の進行を見据えた学習指導のあり方を踏まえ、幼（保）小中が一貫した教育の推進を図るとともに、ICT 機器の活用をはじめとした具体の取り組みを推進し、学校と家庭とが連携した学び直しのシステムの確立及び家庭学習の充実に努めます。

さらに、一人一人のわくわく感こそが学びの動機であると捉え、「創る」と「知る」が循環する学びへの転換をめざす「学びの STEAM（Science 科学、Technology 技術、Engineering 工学、Arts 人文社会・芸術・デザイン、Mathematics 数学）化」の浸透を図ります。

（2）豊かな心

基本的自尊感情の育成、規範意識の確立、多様性の尊重、コミュニケーション能力の育成、安心して学ぶことのできる受容的な人間関係・安全な環境づくりの 5 つを重点目標とした人権教育、児童・生徒指導及び教育相談に取り組みます。さらに、学校の小規模校化の進行を見据えた児童・生徒指導のあり方の検討を踏まえ、人間関係プログラムを推進します。

いじめの防止については、「真鶴町いじめ防止基本方針」を推進する中で、いじめの早期発見・早期対応・解消に向けた適切かつ丁寧な対応を徹底し、未然防止策の充実に児童・生徒のいじめに対する判断力や行動力の育成に努めます。

また、郷土真鶴に根ざした「ふるさと教育」や、その一つである「海の学校」をはじめとする海洋・環境教育を推進し、郷土への誇りや愛する心、『まちの未来づくり』に主体的に関わろうとする姿勢を育むとともに、国際社会が共通で取り組むべき持続可能な開発目標「SDGs（Sustainable Development Goals）」をめざした社会の担い手を育成します。

（3）健やかな体

遊びや学習を通して体を動かすことの楽しさを実感し、だれもが日常的にスポーツに親しもうとする運動習慣の定着をめざした取り組みを推進します。さらに、社会体育と連携し、家族でスポーツに親しむ習慣を形成するために、ニュースポーツの普及を学校教育でも推進します。

（4）学校の安全

令和 2 年 1 月に策定した「学校の安全管理見直し計画」に基づき、安全な教育活動及び安全な教育環境の整備に努めます。

（5）その他

- ・まなづる小学校と真鶴中学校との校舎施設統合にあたり、子どもの育ちを支える教育環境について、児童・生徒が気持ちよく生活できるよう、計画的にその整備に努めます。
- ・地域と連携した教育のより一層の推進のために、学校関係者評価委員会をはじめとした組織の機能を充実させるとともに、スクールサポーターによる教育活動を拡充していきます。

<社会教育>

【前文】

町民の主体的な学習活動への支援、学習機会の整備等を一層充実させ、「だれもが楽しく学べる、持続可能な生涯学習社会の実現を図る」ことを基本方針として、学校教育との連携を重視し、相互に施設や人材等の教育資源の活用が図られるような土壌を形成します。具体的には、豊かな自然や有形・無形の文化財の保護・活用を図り、町民がスポーツの楽しさを知り、健康でいきいきとした生活を送ることができる取り組みを支援し、活気溢れる元気なまちづくりを推進します。

特に、少子・高齢化が急速に進む中、子どもの成長を支える持続可能な社会教育事業の改善を進めるとともに、戦後80周年にちなみ、戦争の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝える事業を展開します。

さらに、地域・学校・家庭の3者が協働して地域づくりや学校づくりに努めることで、地域の活性化と学校教職員の負担軽減に努めます。

また、「障害者差別解消法」を踏まえて合理的配慮を心がけ、事業のバリアフリー化に努めます。

(1) 文化活動への支援

町民参画による多様な文化活動を支援し、日々の活動の中で築き上げた成果を活用したり発表したりする機会を積極的に提供します。高齢世代のもつ知識や経験と若い世代の活力を融合させ、持続可能な文化活動と心豊かな生活の実現に努めます。

(2) スポーツ活動の推進

幼児期から高齢期までの各期に合わせたスポーツ活動に親しむ場を提供することにより、町民の健康づくりを推進し、元気なまちづくりをめざします。

特に、年齢や障がいの有無に関わらず、すべての人が互いを大切にし、支え合うという共生の理念を理解し、だれもが気軽にスポーツライフを楽しむことができるよう、パラスポーツを取り入れたニュースポーツ活動を積極的に推進します。

(3) 青少年の健全育成

地域・学校・家庭及び関係機関が連携を密にし、地域全体で子どもたちに寄り添い、基本的自尊感情を育むことのできる環境の整備を推進します。

また、実践を通して築き上げてきた地域の教育力を活用し、子どもたちが安心して過ごせる放課後・休日の居場所づくりや、他の自治体との連携・交流による様々な体験学習を通し、青少年の自主性や多様な見方・考え方の育成に努めます。

(4) 家庭教育への支援

「教育の原点は家庭にある」との認識に立ち、家庭・学校をはじめとする関係機関との連携を密にし、子どもたち一人一人に社会の一員としての自覚を促すとともに、福祉部局と連携した家庭教育支援事業の充実に努めます。また、家庭の中でコミュニケーションの機会をもてるよう、様々な事業を通して各家庭に働きかけます。

(5) 文化財の保護・活用

先人から受け継いできたかけがえのない町の文化遺産や伝統行事を保護するとともに、これらに触れる機会を、子どもたちをはじめとした町民に積極的に提供し、後世に伝承していくことに努めます。

(6) 社会教育施設同士の連携事業の推進

公民館・図書館・美術館・博物館を有する恵まれた教育環境を生かし、施設同士が連携することで、より教育的効果の高い魅力的な社会教育事業を展開します。

(7) 社会教育施設の計画的な経営改善と改修

生涯学習を支える公民館等の各施設について、収支状況、入館者数など現状を十分踏まえ経営改善に努めるとともに、維持管理については「真鶴町公共施設個別施設計画」に基づき計画的な改修に努めます。

2 重点施策

<学校教育>

確かな学力、豊かな心、健やかな体等の「生きる力」をより具体化した「生きて働く『知識・技能』『未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』『学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の資質・能力を育成するために、教育課程全体を通して学習指導要領の円滑な実施と充実に努める。特に、2026（令和8）年度に計画されている小学校と中学校との校舎施設統合を踏まえ、「真鶴町幼（保）小中一貫教育」をすべての教育施策の土台とし、特に次の事柄について指導の充実に努める。

(1) 学習指導の充実

① 学級・学年経営を基盤とした「授業に関する真鶴スタンダード」の実践

授業に関する真鶴スタンダード

ア：落ち着いたある授業	いつでも・だれでも
イ：学び合う授業	「共に学び共に育つ」教育の中核
ウ：確かな学びのある授業	活動を通して何を学んだか、何の「力」をつけたのか

② 一人一人の学びを確実にするきめ細かな指導の充実

- ・PDCA（Plan 計画、Do 実行、Check 評価、Action 改善）サイクルによる指導方法の工夫・改善

③ 学びへの意欲を高め、考える力や活用する力を育む深い学びのある授業の創造

- ・児童・生徒の好奇心をかき立て、児童・生徒の可能性を引き出す活動の創出
- ・考える力の育成に向けた「対話と合意」による学び合いのある授業づくり
- ・書く活動と習熟の機会を効果的に取り入れ、学びの定着を図る学習活動の工夫

④ ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）機器を効果的に活用した教育の推進

- ・プログラミング教育の充実と論理的思考力の育成
- ・ICT機器の活用による児童・生徒の対話や近隣学校との交流の実現
- ・デジタル教科書を活用した実践の積み上げと電子書籍導入に向けた検討
- ・小学校副読本「まなづる」及び中学校副読本「真鶴」のデジタル化の推進

⑤ 外国語（英語）教育の充実

- ・ALT（Assistant Language Teacher：外国語指導助手）や英語活動指導員の配置による発達段階に応じた英語に親しむ教育の推進
- ・英語によるコミュニケーション能力の基礎を培う教育の推進
- ・外国の学生等とのオンライン交流学習の検討と実践

⑥ 「確かな学力」の育成と学び直しの時間の充実

- ・ことばを大切にされた教育の推進
- ・幼小中合同教育研究会と連携した全国学力・学習状況調査の結果分析と有効活用

⑦ 支援教育・インクルーシブ教育の推進

- ・「共に学び共に育つ」教育をめざした、合理的配慮に基づく学習指導・支援の充実
- ・神奈川県立小田原支援学校湯河原校舎との連携の促進

⑧ 読書活動の推進（社会教育との連携）

- ・幼児期・児童期の読み聞かせの充実
- ・小中校舎施設統合に向けた学校図書館の充実と町立図書館との連携の促進

⑨ 体力の向上に向けた取り組みの推進

- ・休み時間における外遊びの奨励

⑩ 家庭と連携した家庭学習の充実

- ・子どもの実態と今日的課題を踏まえた「家庭学習のすすめ」の定着

⑪ 学習ボランティアの推進

- ・スクールサポーター・コーディネーターの機能の充実

(2) 幼児教育の充実

幼児の自発的な活動としての遊びを通して、心身の調和の取れた発達の基礎を培い、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」といった資質・能力を一体的に育成する。また、町内私立保育所との連携を推進し、幼児教育への理解を促進し共有を図る。

- ① 幼児の主体的な遊びを通じた学びのあり方及び指導法の研究と実践
- ② 幼保・小の接続期における架け橋プログラム（アプローチカリキュラム）の実践
- ③ 相手を意識した言葉による伝え合いの指導の推進
- ④ 豊かな感性や多様な表現を培う保育・教育活動の推進
- ⑤ 支援教育の視点を取り入れ、幼児一人一人の生活経験や発達に応じた幼児教育の推進

(3) 地域と連携した真鶴町幼（保）小中一貫教育の推進

幼（保）小中の12（15）年間の子どもたちの育ちを支えていく、施設一体型の小中一貫教育校（義務教育学校）実現のための準備を、まなづる小学校「学校運営協議会」や真鶴町学校建設準備委員会を中心に地域と連携して着実に進める。その際、移住・定住促進の一助となるよう、真鶴らしさを盛り込んだブランディング（価値を高め、他との差別化を図ること）を意識した取り組みに努める。

- ① 施設一体型の小中一貫教育校（義務教育学校）の実現に向けた取り組み
 - ・半島（町）全体をフィールドにした「半島まるごと学校」を考え方の根幹に据えた、新教科「まなづる未来学（仮称）」構想の構築
 - ・幼稚園・保育所・小学校・中学校を交えた異学年交流の充実
 - ・幼（保）小中一貫教育への理解促進のための教職員向け研修会の実施
 - ・幼小中合同教育研究会との連携を密にした、12年間の教育カリキュラムの作成と実践
- ② ふるさと教育の充実
 - ・地域理解と地域教材を活用した教育の充実をめざす「ふるさと教育研修会」の実施
 - ・岩海水浴場や民間水泳施設を活用した水泳授業の実践
 - ・中学生の町防災訓練への主体的参加
- ③ コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の効果的運用
 - ・小学校で立ち上げたコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を母体に、幼稚園・中学校を含めた真鶴町学校運営協議会設立への検討と、町民等が学校運営により一層参画する仕組みの構築
 - ・スクールサポーター・コーディネーターの機能の充実<再掲>
 - ・安全安心サポーター・環境整備サポーター・読書推進サポーター等の取り組みの推進
- ④ 食育の推進
 - ・小学校給食調理業務等委託事業への移行と小中校舎施設統合後の中学校完全給食に向けての準備
 - ・安全安心な小学校給食の提供と地産地消の推奨や「お弁当の日」の実施

(4) 児童・生徒指導の充実

すべての子どもが互いの人権を尊重し、個性を發揮し合いながら生活できる学校づくりを根幹として、児童・生徒理解に基づく日々の小さな出来事への支援や、ルーティーンとなる日常の指導を積み上げる。また、自ら創造・選択・実践し、喜びを感じられる機会を学校生活に意図的に設けるとともに、きめ細やかで積極的な児童・生徒指導の取り組みを進める。

- ① 児童・生徒指導を通して育成する力
 - ・基本的自尊感情の育成
 - ・多様性の尊重
 - ・規範意識の確立
 - ・コミュニケーション能力の育成（人間関係づくり・社会性の伸長）
- ② いじめの未然防止と解消に向けた適切な対応
 - ・きめ細やかないじめの把握（学期1回のアンケート調査等）
 - *児童・生徒への積極的な言葉かけによる、表れづらい悩み等への教育的アプローチの実施
 - ・学級担任が抱え込むことなく、だれもが当事者という意識でのチーム対応
 - ・関係者間の情報共有と行動連携による迅速な対応
 - ・児童・生徒がいじめについて主体的に考え行動する教育活動〔特にSNS（Social Networking Service）関係〕と家庭への啓発の推進
 - ・いじめに対する判断力・行動力を育成する教育活動の計画と実践の積み上げ

- ③ 言葉の指導と人権に配慮した言語環境の構築
 - ・自分の思いや願い、判断したことを適切に表現できる言葉の力の育成
 - ・相手の立場や状況、気持ちを考えた言葉遣いの指導
 - ・あいさつが自然に交わされる環境づくり
 - ・より良い人間関係づくりの基盤となる言語環境（文書・掲示物等）の促進
- ④ 児童虐待への適切な対応
 - ・家庭環境が心配な児童・生徒に対する丁寧な見守りと情報共有
 - ・福祉行政や警察等、関係機関との情報共有と行動連携を密にした迅速な対応
- ⑤ 学校の小規模校化の進行を見据えた取り組みの実践
 - ・人間関係プログラムによる児童・生徒の人間関係構築力の向上
- ⑥ 諸課題に対する予防的な対策の推進
 - ・情報モラル、リテラシーに関する教育の充実と、スマートフォン等を正しく利用する意識と態度の育成
 - ・規則正しい生活習慣の定着の推進

(5) 不登校の改善（教育相談の充実）

不登校の児童・生徒への学校内外における相談体制の整備を進めるなど、不登校の子どもたちの教育機会について支援を図る。

- ① 予防的対応の実施と充実
 - ・教育相談コーディネーター及び養護教諭を中心とした教育相談担当と児童・生徒指導担当との連携
 - ・学級や学年、学校の枠を越えたチーム支援の構築
 - ・だれもが安心して楽しく過ごせるような学級づくり、人間関係の形成
 - ・月の欠席3日以上の子どもの適切な対応と、遅刻が多い児童・生徒への早めの対応
- ② 教育支援センター専任教員及び訪問相談員、教育相談員、教育子育て支援員等の連携と協働による不登校対策の充実
- ③ 福祉部局・SC（School Counselor）・SSW（School Social Worker）等との連携による支援の充実
- ④ 校内支援室（リソースルーム、みんなの教室、ワンステップルーム）の体制の充実
- ⑤ 保護者に対する福祉行政と連携した支援体制の確立

(6) 児童・生徒の安全に配慮した教育の推進

「学校の安全管理見直し計画」に基づき、教育活動中における事故を予防し、園・学校生活における安全な環境の整備に努める。

- ① 教材・教具等定期的な安全点検の確実な実施と改善
- ② 安全への配慮を常に意識した週案等の指導計画の作成と授業の実践
- ③ 危険予測、適切な処置・対応等、安全配慮に関する正しい知識を得る研修の実施
- ④ 幼児・児童・生徒の視点に立った安全な環境整備の促進
- ⑤ 学校運営協議会、学校関係者評価委員会等による外部の視点による学校安全についての点検の実施

(7) 登下校の安全と防災計画・防災教育の見直し・改善

大規模な自然災害の発生に備え、「学校・園防災担当者会議」における検討を通して、子どもたちの安全確保を最優先にした防災計画のあり方を追究するとともに、災害に遭遇した際に自ら考え判断し行動できる子どもを育成するための防災教育の充実を図る。

- ① 自治会、PTA、民生委員・児童委員協議会等と連携した通学路の見守り体制の確立
- ② 不審者情報等の迅速なメール配信
- ③ 実際の場面に生きて働く幼（保）小中の防災計画・防災教育の実践と検証
- ④ 「助けられる立場」から「助ける立場」をめざした地域防災活動への主体的参加の促進
- ⑤ 登下校時における避難訓練の実施に向けた検討と、避難行動時の町部局等との連携の促進
- ⑥ 町内私立保育所と連携した幼保小中の防災訓練の実施と改善
- ⑦ 被災時における学校再開への努力と避難所運営協議会（仮称）と連携した避難所運営への協力

(8) 教職員の資質向上をめざした研修の充実

職場内の教職員教育「OJT(On the Job Training)」の実践を通して、教職員の資質・能力や指導力・授業力の向上を図るとともに、人権感覚・人権意識の向上に向けた取り組みや不祥事ゼロに向けた取り組みを推進する。また、子どもと向き合う時間の確保をはじめとする持続可能な教育の構築に向け、研修会の精選や開催時期等の検討を進める。

- ① 職場内の教職員教育「OJT」の計画と推進
- ② 足柄下郡三町が連携した授業力・課題解決力・人格的資質の向上を図る研修の実施
- ③ 人権感覚・人権意識の向上を図る研修の実施
- ④ 不祥事ゼロに向けた取り組みの推進
 - ・「意識化・行動化・継続化」の指導の徹底
 - ・体罰根絶に向けた取り組みと指導力の向上
 - ・不祥事防止への対策の工夫と主体的な取り組みの推進
- ⑤ 安全な教育活動の実現に向けた研修の実施

<社会教育>

「町民主体の生涯学習」と「郷土愛を育む教育」を推進する観点から、町民の多様なニーズと学習課題に応じた学習機会や情報提供の充実を図ると共に、町民の主体的な学習活動や社会教育関係団体の自主的活動（住民自治の礎）を支援し、いつでも学び直しができる生涯現役の町をめざす。また、学校・家庭・地域がそれぞれの役割や責任を果たし、一体となった取り組みを推進するとともに、先人から受け継いできた真鶴町の自然や文化遺産に触れる機会を町民に積極的に提供し、後世に伝承していく土壌を育む。

(1) 文化活動の充実

- ① 日々の文化的活動への支援と、町民が主体となった活動成果の発表の場の提供
- ② 高齢世代の経験や知識と、若い世代の活力の融合による持続可能な文化活動の推進
- ③ 中川一政美術館の文化観光拠点としての「登録博物館」への手続きと、多方面からの作品展示を可能とする仕組みの構築
- ④ 町内の創作活動拠点を結ぶ「町歩き型美術館」の開設準備
- ⑤ 会員の減少等により運営が困難となった団体への相談・助言業務の推進と支援体制の構築

(2) 生涯スポーツの振興

- ① 地域間交流、多世代間交流及び健康増進を図るための町民運動会・健康マラソン大会等の開催
- ② 共生の理念に基づいたパラスポーツの普及を図るための生涯スポーツ事業の展開
- ③ 中学校部活動の地域移行に向けての準備（学校教育との連携）
- ④ 小学校体育館及び中学校体育館、中学校グラウンド等の施設の開放

(3) 青少年の健全育成

- ① 地域の教育力を生かした体験学習活動の充実及び他の自治体との連携
 - ・子どもフェスティバル（夏・冬）等、郷土が有する人材・自然・施設等を活用した体験事業の充実
 - ・遠藤貝類博物館が行う「海の学校」を中心とした学習旅行等の拡充
 - ・他の自治体と連携した郷土にはない素材の体験事業の充実
 - ・「放課後子どもいきいきクラブ」「まなづる土曜教室」等の実施による地域学校協働活動の推進
- ② 青少年問題協議会及び青少年育成連絡会での課題解決に向けた協議
 - ・スマートフォン等の被害から子どもを守る方策の検討・実施
 - ・町に住む大人として子どもの模範となるような言動を推奨する啓発活動の実施

(4) 家庭教育力の向上

- ① 「まなづる教育の日」や「真鶴家庭の日」の周知や取り組みの推進
- ② 「家庭学習のすすめ」を活用した家庭学習の定着に向けた取り組みの推進
- ③ 子育て世代への情報提供や交流の場としての学習・体験講座の開催
- ④ 家庭での読書活動の推進につながる図書館事業の実施
- ⑤ 福祉部局との連携強化と託児ボランティアの今後のあり方についての検討

(5) 文化財の保護・活用

- ① 町指定候補となる文化財及び伝統文化行事の洗い出し
- ② 貴船まつりをはじめとする伝統文化行事の後継者育成のための働きかけ
- ③ 文化的資産を活用した教養講座の開催
- ④ 町指定文化財の再整理とデジタルデータ保存の推進
- ⑤ 「鴉窟」の町文化財指定に向けての手続き

(6) 読書活動の推進（学校教育との連携）

- ① 幼児期・児童期の読み聞かせの充実<再掲>
- ② 学校図書館と町立図書館との連携促進と小中一貫教育校開校に向けた準備
- ③ 町立図書館を中心とした文字・活字文化の振興と事業の充実

(7) 社会教育施設の経営改善等

- ① 魅力ある展示や教育普及事業の展開（美術館、博物館、図書館）
- ② 社会教育施設同士の連携事業の推進による魅力ある社会教育事業の展開
- ③ 社会教育施設が実施する体験活動への他自治体からの積極的な招致（交流人口の創出）
- ④ 旧民俗資料館の収蔵品の保管・展示
- ⑤ 徹底的な施設の経営改善と、「真鶴町公共施設個別施設計画」に基づいた改修工事の実施

<教育委員会>

(1) 教育委員会制度の趣旨を踏まえた取り組みの推進

- ・真鶴町教育大綱を踏まえた教育行政の推進
- ・保護者、児童・生徒をはじめとする町民や学校から信頼される教育行政の推進
- ・学校支援を第一に考えた責任ある教育行政の推進
- ・迅速な判断と行動力による教育行政の推進
- ・開かれた教育行政の推進
- ・総合教育会議の充実と町長部局との連携
- ・今日的課題への対応（一貫教育の推進、タブレット端末の更新、校舎移転に係る一連の準備等）

(2) 学校における働き方改革の推進

- ・校務支援システムの効果的な活用
- ・子どもと向き合う時間の確保
- ・教職員の勤務状況の適正把握と改善の推進
- ・学校給食費公会計化の令和9年度実施に向けた準備
- ・教育支援員の適正配置と学校との連携強化

(3) 小中一貫教育校の実現に向けた取り組みの推進

- ・校舎移転に係る計画的な取り組み（小学校校舎改修、カリキュラム調整、予算計上、財源確保等）
- ・学校建設に係る基本設計の策定
- ・学校建設専門職員の配置等、事務局体制の強化
- ・ZEB（ゼロ・エネルギー・ビルディング）仕様の導入の検討
- ・学校菜園（エディブル・スクールヤード）計画の検討（旧テニスコート）
- ・半島留学のシステム（デュアルスクール等）の検討
- ・部活動及び水泳授業（プール）について湯河原町との広域連携の検討
- ・「教育を語り合う会」「教職員との懇談会」「保護者向けアンケート調査」等の継続実施（要検討）
- ・新校舎建設予定地周辺を中心とした住民説明会の実施
- ・新教科開設に向けての特例校申請
- ・小中校舎施設統合に向けての加配申請
- ・教職員の兼務発令に向けての準備
- ・統合に係るスクールバス運行計画の見直し
- ・広報真鶴等、広報活動の充実